

# 国語科学習指導案

広島市立〇〇小学校

教諭 〇 〇 〇 〇

1 日時 平成23年1月〇日 5校時

2 学年・組 第5学年〇組（男子〇名 女子〇名 計〇名）

## 3 指導事項

(1)「A 話すこと・聞くこと」 オ

- ・ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

(2)〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ（キ）

- ・ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

## 4 言語活動

- ・ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。（言語活動例 イ）

5 単元名 身近な生活について討論しよう 「インスタント食品とわたしたちの生活」

## 6 単元の評価規準と目指す児童の具体的な姿

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○ 立場や意図をはっきりさせながら、適切に話したり聞いたりしようとしている。	○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。	○ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。
○ 「身近な問題」について、討論するために、本や資料を用いて調べたり、インタビューやアンケートを行ったりして、自分の意見の根拠をより確かなものにしようとしている。	○ 討論の形式やルールを理解し、「身近な問題」について、互いの立場や意図をはっきりさせながら、時間内にまとめられるよう、発言内容や発言回数に注意して話し合っている。	○ 文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることを理解し、話し合う際に、自分の目的や意図に応じた構成を活用している。

## 7 単元について

○ 児童の状況

- ・ **進んで話し合うこと**：学年当初は、人前で話すことを苦手とし、スピーチは好きではないという児童が約半数を占めていたが、5月単元「自分の考えを伝えるスピーチをしよう」の学習を終えると、「スピーチは難しいし、はずかしい。でも、楽しいことだと思った。」「好きになった。」など、話すこと、話し合うことは楽しいと考える児童が多くなった。そこで、朝の会に日直が昨日あった出来事の中から話題を選んでスピーチをするという活動を位置づけ、取り組むことにした。当初は、出来事の報告と簡単な感想だけというスピーチが多かったが、関心をもった事柄について質問をしたり、自分の思いと比較して意見を述べたりするよう聞き手に促したところ、話し手は、次第に相手を意識して話題を選んだり、考えたことや伝えたいことなどから話題を選ぶようになってきた。また、1月からは、日直のスピーチ

内容からテーマ（話題）を設定して、簡単なグループディスカッションも行っている。9月単元「話の組み立てを工夫して」では、自分たちで取材した内容を、ニュースとして伝え合う活動を行ったが、相手に話したい、伝えたいという思いをもち、効果的な話の組立てや適切な言葉遣いを考えながら意欲的に活動する姿が見られた。

- ・ **互いの立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合うこと**：5月単元「自分の考えを伝えるスピーチをしよう」では、自分の考えや意図が伝わる工夫をして話したり、話し手の意図を考えながら聞いたりする学習を、9月単元「話の組み立てを工夫して」では、相手に伝えたい事や、自分が考えた事を聞き手にはっきりと伝えるために、話の組立てを工夫して話したり、話し手の工夫に注意しながら聞いたりする学習をした。児童の多くは、自分の考えを順序や話の中心に気をつけながら、分かりやすく話すことや、意図がはっきり伝わるように、事実と感想、意見との組立て、資料や例示の活用などを効果的に工夫すること、話し手の意図をつかみながら話の内容を聞き取ることができるようになってきている。しかし、異なった考えの人と計画的に話し合い、互いの考えを広げたり深めたりすることは、経験不足もあり、まだ十分にはできていない。
- ・ **論の進め方**：話すこと・聞くことの領域では「分かりやすく伝える」「会話を成り立たせる」「考えた事をはっきり伝える」ことの学習において、書くことの領域では「質問の手紙を書く」「相手や目的を考えて書く」ことの学習において、読むことの領域では「説明文の要旨をとらえる」ことの学習において、自分の考えを明確に表現するためのさまざまな段落の組み立て方、論の進め方を学んできた。しかし、はじめ・なか・おわりといった展開の仕方、考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方、順序に沿った述べ方など、構成の工夫について理解しても、自分が書いたり話したりする際に、自分の目的や意図に応じた構成を活用することができない児童が多く見られる。

#### ○ 教材の価値

- ・ **教材文「インスタント食品とわたしたちの生活」**：本教材は、「序論：話題提示」「本論：インスタント食品のよさと問題点」「結論：筆者の考え」という文章構成で、段落のまとまりがはっきりとしており、文章全体の構造が捉えやすい文章である。また、インスタント食品のよさと問題点の両面について、理由や根拠を挙げながら説明し、最後に、よさと問題点の両方を受け止めた筆者の考えが述べられており、ディベートからディスカッションへとつなげていく本単元の学習計画において、立論・反論・合意形成の方法を理解させるためには好適な教材であるといえる。
- ・ **言語活動「調べたことやまとめたことについて、討論などをする事」**：本単元では、「互いの立場や意図をはっきりさせて、計画的に話し合う力」をつけることをねらい、言語活動に「調べたことやまとめたことについて、討論などをする事」を設定した。ここで取り上げる討論とは、ある論題についてグループ単位で賛成・反対の二つの立場に分かれ、それぞれの考えを述べ合う「ディベート」と、問題の解決策や合意を目指して衆知を集める「ディスカッション」を合わせた討論形態「ディベカッション（前お茶の水女子大学教授 村松賢一氏による造語）」である。ディベートは、物事をいろいろな角度から考えることや、理由や根拠が明らかな、説得力のある話し方を、ゲームとして楽しみながら身につけることができる。また、物事に対して、さまざまな視点からとらえることで、自分の考えを広めたり深めたりすることができる。その後、ディスカッションを行うことにより、最終的なゴールを議論の勝敗ではなく、話し合いを通じてよりよい考えを作り出す合意形成とすることができ、ディベートに伴いがちな諸問題の解決を図ることができる。

○ 指導の工夫

- ・**進んで話し合うこと**：児童自らが討論する必要性和価値を見出せる「身近な問題」を論題として設定する。また、討論に際しての自分の意見の根拠をより確かなものにするために、本や資料を用いて調べたり、インタビューやアンケートを行ったりすること、分析することを活動の中に位置付ける。
- ・**互いの立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合うこと**：教材文「インスタント食品と私たちの生活」を使ってモデルディベカッションを行い、準備や討論の仕方を学習させる。討論の場は、自分の意見を整理して相手に伝える練習の場となるようにするために、クラス全員が賛成側・反対側のいずれかに属する全員参加方式で行う。「つまり」、「要するに」など論理を示す接続詞や、「確かに」、「なるほど」といった相手に共感する言葉を大切にしながら討論をさせるようにしたい。また、計画的に話し合う力を付けるために、決められた時間内にまとめられるように発言内容を簡潔にしたり、発言回数に注意したりして、工夫するようにさせていきたい。問題の共有や論点の整理は前半の「ディベート」で、結論や対策は後半の「ディスカッション」で行う。その際、対立的なディベートの雰囲気を協調的なディスカッションに切り換えるために、教師が論点を整理し、新たな議題を提示する。議論の観点を示すことで、ディスカッションの方向をはっきりとさせ、前半のディベートが後半のディスカッションに生きるような話し合いになるようにしていきたい。

Ⅰ ディベート		
1 立論	①賛成側（1班30秒×3班）	2分
	②反対側（1班30秒×3班）	2分
2 作戦タイム		1分30秒
3 反論	①反対側	3分
	②賛成側	3分
4 論点の整理と後半Ⅱの論題説明		5分
Ⅱ ディスカッション		
1 自分の考えを書く		2分
2 討論		15分
3 最終的な自分の意見、なるほどと思った他の人の意見を書く		3分
4 3で書いた感想を発表する		2分

- ・**論の進め方**：教材文を利用して討論の方法を学ぶ学習過程を設定することで、これまでに学んできた、自分の考えを明確に表現するためのさまざまな段落の組み立て方、論の進め方の理解を深め、はじめ・なか・おわりといった展開の仕方、考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方、順序に沿った述べ方など構成の工夫について、自分が話す際に、自分の目的や意図に応じた構成を活用することができるようにする。

# 8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	評価の観点		
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
一	1	単元の扉に書かれている文章に対する自分の考えをもつ。 全文を通読して概略をとらえる。 事前に集めたインスタント食品について話し合い、初めの考えを見直す。 (ノート・発表・ふり返しカード)	○		
	2	教科書の「てびき」を読んで、学習の内容や流れをつかむ。 新出漢字と読み替え漢字の練習をする。 難語句の意味調べをする。 (ノート・評価テスト・ふり返しカード)			○
	3・4	形式段落ごとの内容をとらえ、文章全体を大きく3つ（序論・本論・結論）に分けて構成をとらえる。 (ワークシート・ノート・ふり返しカード)			○
	5	ディベートの手順を理解し、「インスタント食品は、積極的に利用すべきである」という論題について、反対側立論をまとめる。 (発言・ワークシート・ノート・ふり返しカード)			○
二	6	ディベートの手順を理解し「インスタント食品は、積極的に利用すべきである」という論題について賛成側立論をまとめる。 (発言・ワークシート・ノート・ふり返しカード)			○
	7	ディベートの手順を理解し「インスタント食品は、積極的に利用すべきである」という論題について反対側反論・賛成側反論をまとめる。 (発言・ワークシート・ノート・ふり返しカード)			○
	8	ディスカッションの手順を理解し、3つの問題点を改善または解消する方法を考え、「インスタント食品の効果的活用法」について話し合う。 (発言・ワークシート・ノート・ふり返しカード) (本時)		○	
	9・10	「筆記用具は、シャープペンシルではなく、えん筆を使うべきである」という論題で、ディベカッションをする。 (発言・ワークシート・ノート・ふり返しカード)	○		
三	11・12	「手紙を出すときには、パソコンなどで作らず、手書きにするべきである。」という論題で、ディベカッションをする。 (発言・ワークシート・ふり返しカード)	○	○	
	13	学習を振り返っての感想を伝え合い、学習のまとめをする。 (発言・ノート・振り返りカード)	○		

\* 準備物 ワークシート、ふり返しカード、ビデオ教材

## 9 目標（話す・聞く能力 二次 第8時）

- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、論題に沿って計画的に話し合うことができる。

## 10 学習展開（話す・聞く能力 二次 第8時）

学 習 活 動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 本時のめあてと進め方を確認する。	○ 話し合いが計画的に進むように、進行表を掲示する。	
<div>「インスタント食品の効果的活用法」について、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に討論しよう。</div>		
2 論点の整理とディスカッションの論題説明を受ける。	○ 「インスタント食品は、積極的に利用すべきである」という論題について、これまでの論点を整理し、「インスタント食品の効果的活用法」という新たな論題を提示する。その際、議論の観点（①どのようなインスタント食品を ②いつ ③どのように使うのがよいか）を示す。	
3 ディスカッションを行う。  （1） 自分の考えを書く （2） 討論 （3） 最終的な自分の意見と、なるほどと思った他の人の意見を書く。 （4） 3で書いた意見を発表する。	○ 自分の立場や、意見をはっきりさせるために、論題に対する自分の意見を書くためのワークシートを用意する。  C： 教材文の中で筆者が述べている意見を自分の意見として引用できるように、全文の中から利用できる文章を探して分かりやすく示す。  ○ 討論内容を参考にして、最終的な自分の意見をまとめるためのワークシートを用意する。  ○ 討論を振り返り、論題に対する知識や考えの深まりなどが発表できるよう、ワークシートに他の人の意見を書く欄も設ける。	A： 自分の立場や意見をはっきりさせ、論題に沿って、互いの考えを尊重しながら合意形成を目指して話し合っている。  B： 自分の立場や意見をはっきりさせ、論題に沿って、互いの考えを尊重しながら話し合っている。 (発言・ワークシート・ふり返りカード)
4 学習計画表で本時のふり返りと次時の確認を行う。		